

全校のみなさん、おはようございます。

学校のロータリーの薔薇が鮮やかに咲いています。

聞いた話によると、薔薇は育てるのが難しい植物だそうです。

薔薇を育てるときのセオリーとされていることがあるそうです。それは、薔薇を新しい苗から育てるときに、その一年目はあまり花を咲かせすぎてはいけない、というものです。

薔薇の一年目には、あまり花を咲かせないようにして、薔薇の体力がしっかり充実するのを待つのです。そのほうが、結果として、最終的に見られるようになる花の総量は多くなるそうです。

早く花が見たいからと言って、焦って一年目からたくさん花を咲かせようとしてしまうと、将来的にうまく育たなくなってしまうのです。ですから、一年目の薔薇を育てるときには、蕾を摘んでまで、意図的に花を咲かせないようにすることもあるそうです。

この薔薇の話は、人間を育てることに同じようにあてはまるのではないでしょうか。

近年、特に子育てに関して、勉強でもスポーツでも、何でも子どもが早いうちから取り組ませることが尊ばれているように感じます。小学校やそれ以前から、「早いうちから〇〇教育を」と煽られ、さまざまなお子どもに与え、早くから結果がでるように求めているように思います。

しかし、早くから結果を求めすぎることによって、かえって未来を狭めてしまうことがあるのではないのでしょうか。特に芸術やスポーツの世界では、早いうちからコンクールや大会で結果を出すことを子どもに求めすぎると、その時は良い結果が出て注目されるかもしれないが、その先になって花が咲かない、ということが多くあるそうです。

薔薇を育てると同じように、早いうちは、あえて花を咲かせないように、しっかりと「待つ」ことも大事なのかもしれません。目の前の結果に目を奪われず、しっかりと養分を蓄える期間を作ることが大事なのです。